三重県議会議員
いしがき　ともや
石垣 智矢
県政活動報告

智の輪

TOMO-NO-WA

～ 地域の輪が次の時代を創る ～



Vol.9　2025年（令和7年）　春号

編集・発行責任者 / 石垣智矢　住所 / 三重県員弁郡東員町北大社801
TEL・FAX / 0594-41-2477　E-mail / toinman1105@gmail.com

令和7年度当初予算総額 8,366億円【前年度比315億円（3.9%）増】（新型コロナ対策予算除きでは過去最大）

Ⅰ 県民の命と尊厳を守る

1、困難を抱える子どもへの支援 118億円

不登校やいじめといった学校に関する問題、待機児童や児童虐待といった子育て環境に関する問題など、困難を抱える子どもへの支援を充実させます

○主な新規事業

・「子どもを虐待から守る条例」の改正をふまえた人材育成や関係機関との連携（2,000万円）
・令和7年度開校「県立みえ四葉ヶ咲中学校」の学習環境整備と学校運営（3,000万円）
・保育士確保に向けた「三重県保育士・保育所支援センター」の人材バンク機能強化（700万円）

2、防災・暮らしの安全 844億円

南海トラフ地震対策、医療提供体制の確保、増加する犯罪の防止など、人権が尊重され、県民の暮らしの安全安心を守る取り組みを強化します

○主な新規事業



・孤立地域対策や避難所環境改善支援のための「いのちを守る防災・減災総合補助金」の創設（3億3,400万円）
・医師、看護職員、薬剤師等の確保、偏在解消に向けた取り組み（21億6,500万円）
・令和7年9月制定予定の「三重県性暴力の根絶をめざす条例（仮称）」に基づく周知・啓発（1,200万円）
・沖縄「三重の塔」の苑内環境整備事業（6,800万円）

Ⅱ 未来を拓く

1、子どもの希望を育む 91億円

子どもが未来に希望をもって成長できるよう、変化の激しい社会の中でも自分らしく生き抜いていく力の育成や、子どもが豊かに育つ環境づくりをさらに進めます

○主な新規事業

・「三重県子ども条例」改正をふまえた取り組みの推進・啓発（4,100万円）
・子ども医療費の現物給付に係る市町補助の対象を中学生年齢の入院まで拡大（1億9,300万円）

2、産業の成長支援 444億円

産業の力強い成長に向けて、社会情勢の変化や気候変動に対応した産業振興に取り組みます

○主な新規事業



・半導体関連産業の集積や投資促進（2,300万円）
・スタートアップ創出支援（6,000万円）
・輸出用米の生産性向上技術や輸出時の品質低下防止の実証実験の実施（500万円）
・真珠、青さのり、マハタ養殖の遺伝子情報を活用した育種の実施（3,000万円）

3、観光・プロモーションの推進 37億円

「三重県プロモーション推進方針」に基づいて、世界に誇れる三重の豊かな地域資源を生かして、様々な主体と連携して誘客促進や県産品振興に取り組みます

○主な新規事業

・インバウンド誘客に関する戦略策定および受入環境の充実への支援（6億2,400万円）
・伊勢茶のブランド戦略構築、関西茶品評会でのブランド価値向上支援（1,500万円）
・第44回全国豊かな海づくり大会～美し国三重大会～の開催（6億7,200万円）

4、人口減少対策の着実な推進 134億円

「三重県人口減少対策方針」に基づく様々な取り組みを進めて人口減少の緩和をめざすとともに、適応策を検討するなど効果的な取り組みを着実に進めます

○主な新規事業

・ジェンダーギャップ解消に向けた戦略策定（400万円）
・移住希望者のニーズや特性に応じたプロモーションの実施（2,700万円）
・AIマッチングシステムを導入した新たな出会い支援の充実（3,900万円）
・公共ライドシェアの導入など交通空白の解消に取り組む市町支援（1億3,000万円）

5、人材確保対策の本格展開 74億円

企業等の活動にとって喫緊の課題となっている人材確保について、令和6年度に策定された「三重県人材確保対策推進方針」に基づき、全庁を挙げて対策を進めます

○主な新規事業

・カスタマーハラスメントの防止に係る条例の制定、対策に取り組む企業支援（2,200万円）
・短時間正社員制度等の導入・活用の促進（奨学金支給、専門家の伴走支援等）（3,300万円）
・高齢者の就労機会確保や障がい者雇用に取り組む企業支援（1,600万円）
・適正価格での販路拡大に向けた支援、適正取引・価格転嫁の普及啓発（1,100万円）

令和７年２月　石垣ともや一般質問



① みえ子ども・子育て応援総合補助金について

(1) これまでの成果と課題

問　みえ子ども・子育て応援総合補助金は、市町が行う子ども・子育て施策の財源確保が難しい新たな取り組みに対して補助をすることで、市町の創意工夫を引き出し、地域の実情に応じた子ども・子育て施策の充実を図ることを目的に令和5年度に創設されました。令和７年度の新年度予算案でも、3000万円増額の3億3000万円で計上されており、市町の新たな子ども・子育て事業の下支えとなる補助金として、県としての役割を果たしていただきたいと考えます。創設から2年が経過し、これまでの成果と市町が抱える課題をどのように捉えているのか伺います。

答　**子ども・福祉部長**

本補助金は、県内全ての市町に活用いただいており、2年間で延べ110事業を採択しました。事業内容も、乳幼児がいる家庭への支援や子どもの居場所づくり、体験機会の創出などを目的とした事業が増加しており、地域で創意工夫のある独自事業が創出されつつあると捉えています。市町が抱える課題は、育児に不安や負担を抱える家庭が多いこと、子育てと仕事の両立に対する支援ニーズが高まっていること、子どもが地域社会で様々な人と関わる機会が減少していることなどがあると考えています。このため、令和7年度も引き続き、本補助金を通じて市町が抱える課題に応じた新たな取り組みへの支援を行っていきます。

(2) 令和8年度以降の考え方は

問　本補助金は３年を事業期間とし、令和7年度が最終年度となります。子どもを取り巻く環境は一昔前とは様変わりしており、また市町ごとで抱える課題も様々であることから、本補助金が令和8年度以降も継続する意思があると分かれば、市町でより創意工夫を凝らした子ども・子育て支援が多角的に進むと考えます。それぞれの市町からもみえ子ども・子育て応援総合補助金を継続してほしい声がある中で、令和8年度以降の知事の考え方について伺います。

答　**一見三重県知事**

この補助金に対するたくさんの新規事業の申請を受けて、あらためて各市町でやりたい事業が多くあることを実感しました。市町独自の資金ではできなかった事業が形になったことは大きな意味があると感じています。今後も成果と課題を見つめ直し、恒常的な補助金等にしていくことや様々な好事例を市町で横展開を図っていきたいと考えています。令和8年度以降の考え方は、断言するには時期尚早だと考えていますが、やらなければならない課題も多くあることから、継続する思いで皆んなが同じ思いなのではと考えています。市町の思いも丁寧に聞きながら検討していきます。

② 子どもの放課後や長期休みの居場所づくりについて

(1) 放課後児童クラブの待機児童解消に向けて

問　放課後児童クラブ（学童保育）は、就労などにより昼間保護者が家庭にいない小学生に対し、放課後や長期休みに適切な遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る施設です。放課後児童クラブにおける本県の待機児童数は、最新の数字で54人と前年より減少していますが、民間が運営する学童保育等は数字が反映されない現状もあることから、数字以上に待機児童の問題は深刻な状況です。全国的にも「小１の壁」が社会問題となる中で、放課後児童支援員の不足や施設整備の問題など、本県として放課後児童クラブにおける待機児童解消に向けてどのように取り組むのか伺います。

答　**子ども・福祉部長**

県では、放課後児童クラブの実施主体である市町をとおして、施設運営や整備に対する支援を行っています。令和6年5月時点で県内には436の放課後児童クラブがあり、令和元年から36施設が増加するなど、受け皿の整備が進んでいます。一方で一部の市町では、放課後児童支援員の不足を主な要因として待機児童が発生しています。本県では、放課後児童支援員の人材の確保に向けて、認定資格研修の実施方法を集合形式からeラーニング形式に変更するとともに、利用ニーズが高まる夏休みの前に研修を実施するなど、充実を図っているところです。今後も待機児童の解消に向けて、人材確保と施設整備の両面から支援に取り組みます。



(2) 放課後子ども教室の充実について

問　放課後子ども教室は、放課後や週末等に小学校内外における施設を活用して、地域の方々に参画いただきながら学習やスポーツ、文化活動等に育む取り組みです。放課後児童クラブとは違い、親の就労に関係なく、全ての子どもたちが対象となるため、学びや貴重な体験を得られる教育の観点からも非常に重要な居場所であると考えます。放課後児童クラブでの待機児童解消にもつながる放課後子ども教室の充実に向けて、本県としてどのような支援を行っていくのか伺います。

答　**子ども・福祉部長**

県では、放課後子ども教室の運営を支援するため、実施主体である市町を通して補助を行っています。令和5年度は17市町73教室に対して支援を行い、学習支援や各種スポーツ活動のほか、和太鼓教室や木工体験、味噌づくりなど、地域の交流を通じた特色ある取り組みが実施されています。今後もより多くの市町で子どもたちが放課後子ども教室を利用し、様々な体験ができる機会が拡大するよう、市町が抱える課題の把握に努めるとともに好事例を情報共有するなど、様々な働きかけを行っていきます。

(3) 一見知事が考える子どもの居場所の将来像とは

問　私が考える子どもの居場所の将来像は、「地域に子どもの居場所がたくさんあり、その居場所を子どもが自由に選択できる」という将来像を掲げています。子どものより良い教育には、学校教育だけでなく、家庭教育と地域教育の３つが緊密に連携し、バランスよく保たれることが最良の教育につながると考えています。そのためには、地域の方々に地域教育に参画いただき、様々な場面での居場所づくりに取り組む必要があります。伊勢市では、大学生が子どもたちの学習支援に参画していますし、松阪市ではシニアクラブが放課後子ども教室を行ったりと、居場所づくりに繋げています。私も神社での文化体験活動や河川での川遊び体験など、多くの地域の方々に参画いただきながら居場所づくりを行っています。知事が思い描く、放課後や長期休みの子どもの居場所の将来像についてお聞かせください。

答　**一見三重県知事**

私も議員と同じように「居場所が様々あり、その時々にそれぞれの居場所（シェルター）で自己肯定感を涵養すること」が大事であると考えています。明治時代では、父親が子どもを抱きながら洗濯や家事をする光景があちこちで見受けられたと寄稿文にはありますが、昭和になってからは、男手は子育てから遠ざかってしまったのではないかと感じます。明治時代には戻れませんが、親や地域が子どもと一緒にいる時間を長く持つことこそが、子どもの居場所づくりになると考えます。本県では、放課後児童クラブや放課後子ども教室、子ども食堂などの居場所づくりに支援を行っています。　また、子どもの居場所づくりアドバイザー制度を設けて、地域で自ら考えた居場所づくりの取り組みへのフォローなども行っています。引き続き、子ども・子育て応援総合補助金なども使いながら、市町それぞれの創意工夫ある取り組みを支援する形で県の役割を果たしていきたいと考えています。

③ フェーズごとの空き家対策

(1) 地域活性化につながる空き家の活用について

問　総務省が令和5年に実施した住宅・土地統計調査による全国の空き家数は約900万戸と過去最多、割合も13.8%とこちらも過去最高の数字となっています。三重県でも14万2700戸と過去最多を記録し、地域別に見ても東紀州地域では33.8%、中勢地域でも16.3%と全国平均を大きく上回る空き家率となっています。国では、令和5年12月に法改正がなされ、本県でも令和6年度から新たに地域活性化につながる施設への補助事業を進めています。空き家を商業施設や福祉施設などに活用する際にこの補助が使えるため、地域の様々なニーズに対応できる事業なのではと感じています。空き家の地域活性化事業の取り組み状況についてお聞かせください。

答　**県土整備部理事**

令和6年度から、比較的状態の良い古民家など空き家の持つポテンシャルに着目し、地域活性化施設への活用も補助に加えるなど、市町への支援を強化してきました。地域活性化施設への補助は、伊賀市での古民家のホテルへの活用と、南伊勢町での空き店舗をキッチンカーの飲食スペースや子ども向け英会話教室などに開放する多目的施設への活用の2件を予定しています。現時点で、地域活性化施設への補助制度を持つ市町は県内で5市町に留まっています。他県では、フリースクールやサテライトオフィスに空き家をリフォームして活用した事例などもあり、県内市町が参画する「三重県空き家等対策連絡会議」の場などで、取り組み事例の情報共有を図るなど、今後も市町の取り組みを後押ししていきます。



三重県議会 関連質問に登壇しました!!

本県に拠点を置くスポーツチームとの連携について

⑴ スポーツ実施率向上への取組は

問　第３次三重県スポーツ推進計画に基づく成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率は52.7%(令和4(2022)年度実績)であり、目標値である65%とは大きく乖離(かいり)しています。
特に働く世代・子育て世代や女性の実施率が低いことから、身近な場所での機会づくりが必要だと考えます。
そのためには地域に根ざしたプロスポーツチーム等と連携し、スポーツ実施率向上に取り組むべきと考えるが、本県の取り組みについて伺います。

答　**スポーツ推進局長**
本県では、スポーツ推進計画のKPIにスポーツの実施率を設定し、県民の皆さんがスポーツに親しむ機会づくりに取り組んでいます。
みえのスポーツフォーラムやフェスティバル、市町対抗駅伝等を実施しており、今年度のフォーラムでは、東京オリンピック金メダリストである水谷隼選手の講演や体験教室などを開催しました。　フェスティバルでは56の事業を実施し、述べ1万5000人の方にご参加いただきました。
スポーツチームとの連携については、なかなか目立った成果はありませんが、市町や競技団体が国際・国内大会を誘致する際には、県として財政的支援を行い、プロスポーツチームを間近で拝見できる機会づくりに繋げています。
引き続き、県民のスポーツをする意識を高め、実施率向上に取り組んでいきます。

⑵ 次期計画にスポーツチームとの連携を明記すべき



問　第３次三重県スポーツ推進計画には、本県に拠点を置くスポーツチームとの連携や考え方について明記されておりません。次期計画にぜひ盛り込んでいただきたいと考えますが、知事の考えをお聞かせください。

答　**一見三重県知事**
県内には、県内外を問わず活躍する多くのスポーツチームがあり、社会貢献活動にも精力的に取り組んでいただいております。
ヴィアティン三重さんやホンダヒートさんでは、本県のいじめ防止サポーターとして街頭での啓発活動等にもご協力をいただき、お力を注いでくれております。



子どもたちへの教育の観点からも、県内スポーツチームの皆さんの貢献度は大きなものがあると考えています。
次期計画には、プロスポーツチームや選手の果たす役割についても議論をしたいと考えております。

三重県議会主催による第9回全国自治体議会改革推進シンポジウムを開催!!

　全国から250名を超える議員の方々にお越しいただき、駒澤大学名誉教授の大山礼子氏からのご講演、また女性や若者等の意見を反映できる議会改革について5人の議員によるディスカッションが行われました。
　三重県議会では、平成18年に都道府県議会で初めて議会基本条例を制定し、議会改革に積極的に取り組んでいます。今後も二元代表制の一翼を担う議会として、住民本意の政策決定や議会運営等に尽くして参ります。





県内初の夜間中学校「県立みえ四葉ヶ咲中学校」が開校しました!!

　病気や不登校などの理由で義務教育を十分に受けられなかった人や外国籍の方、現役の中学生も通うことのできる夜間中学校です。
　文部科学大臣より「学びの多様化学校」の指定を受け、誰もが自分らしく学べる学校となるよう力を注いでまいります。





東海環状自動車道いなべIC～大安IC間6.5キロが開通しました！

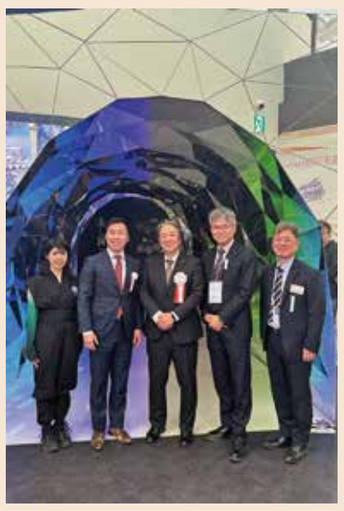
　この開通により、名古屋・関西方面へのアクセス時間が大幅に短縮されることや県外からの移住や企業進出、観光需要の増加など、様々な効果が期待されます。
　いなべICから岐阜方面は、トンネル工事が難航し開通時期が不透明となっていますが、１日も早く全線開通となるよう国に対しても積極的に要望していきます。





大阪・関西万博が開幕しました !!三重県ブースを出展します !!

　4月13日、大阪夢洲万博会場にて大阪・関西万博が開幕しました！！会場内の関西パビリオンにて、三重県ブースを展示しています。三重の祭りや忍者など、多くの方々に三重県の良さを知っていただき、更なる県内誘客に繋げていきます。





国道１号北勢バイパス（日永八郷線～国道477号バイパス）が開通しました！

　北勢バイパスは、1990年に事業が決定されてから35年の長い期間を経て、ようやく全長21kmの内6割にあたる12.6kmが開通しました。
　渋滞緩和や災害対応、企業誘致等の土地活用なども進むため、残り区間の開通に向けて今一度声をあげてまいります。



いなべ・東員から「県立くわな特別支援学校」に通う通学バスが大きくなります！



　くわな特別支援学校に通う保護者の皆さんから通学時における様々な課題の声をいただき、４月から大安・東員ルートのバスが47人乗りの大型バスに、藤原北勢・東員ルートは26人乗りから36人乗りのバスに変更されます。今後も、誰もが安心して学校に通うことのできる環境整備に取り組みます。

内部中学校吹奏楽部による議場演奏会を開催！！

　芸術・文化振興議員連盟主催による第３回議場演奏会を開催し、日本吹奏楽コンクール東海大会で2年連続金賞の内部中学校吹奏楽部の皆さんに、華麗な演奏を披露していただきました。



　今後も音楽や美術等の芸術文化を通じて、豊かな情操を養う機会の提供や県の文化政策の更なる充実に取り組みます。

愛知県議会野球部との交流試合を開催！

　スポーツを通じた議員同士の交流を図るため、交流試合を四日市市で開催しました。
　毎年7月には、都道府県議会全国野球大会も開催されています。スポーツの魅力を発信しながら、広域行政における議員同士の更なる交流を図ってまいります。

ごあいさつ

　春風が心地よい季節となり、新たに令和7年度がスタート致しました。あらためてお力添えをいただく地域の皆様方に深く深く感謝を申し上げるとともに、今後も地域の声を県政に届けるべく力を注いでまいります。
　三重県の一般会計当初予算額は、8,366億円と過去最大の予算額となり、様々な事業や有効な対策に繋げていきます。特に子ども支援や防災・暮らしの安全安心に向けた命を守る取り組みは、予算を大幅に増額して対応にあたっています。
　他にも中小企業等の経営向上支援、農林水産業の生産性向上支援についても増額させていただき、物価高騰の影響を受ける生活者や事業者への早期対応を行う経費も増額をさせていただきました。引き続き、県民の命と生活を守り抜くことに全身全霊で取り組んでまいります。
　3月29日には東海環状自動車道いなべICも開通し、移住や企業進出などの様々なストック効果にも繋がることから、引き続き、いなべ・東員の魅力を全国に発信しながら、住み良い生活環境の充実につなげてまいります。
　今後もより一層のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

石垣　智矢

お気軽にお問い合せ下さい

三重県議会議員 石垣 智矢(ともや)事務所

〒511-0257 三重県員弁郡東員町北大社801番地

TEL/FAX：0594-41-2477　E-mail：toinman1105@gmail.com

ホームページ　Facebook　インスタ　@TOMOYAISHIGAKI